

平成21年度 第3回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日時 : 平成22年2月22日(月) 午前10時～午前11時50分

場所 : 市役所本庁 第5会議室

出席委員: 勝亦祐貴・志水香苗・前田慶子・山崎喜三・渡邊恵子・日比野和代・
勝亦敦志・近藤八重子・杳間 捷・湯山有朋・牛山久仁彦・野木裕次・
田代洋子(杉山泰芳代理)・宇田川寿夫・野木純生・横山秋好・斎藤公夫

事務局 : 内田課長・瀬戸補佐・西山副主任・勝又主事

1 開会

2 あいさつ(会長)

神山有志の会が17日に静岡県のコミュニティ活動賞の優秀賞を受賞した。詳しくは別紙の資料を見てほしい。

今回は平成22年度の補助金募集についてと今年度の事業の評価の方法等も協議してもらおう。ぜひ活発な意見を出し合ってもらいたい。

3 協議事項について

(1) 「市民協働型まちづくり」推進のための施策について

- ・「市民協働型まちづくり」の施策体系より事務局が説明。

(2) 今年度補助金事業の状況について

- ・はじめの一步、市民提案部門の状況、評価シート提出済事業のチェックについて資料より事務局が説明。

委員A: 行政側からの評価シートが提出されていないが今後出てくるのか。また、評価シートの書き方としてシートを見た人が理解できるように記入した方が良いのではないかと。次につながる感想や評価を記入してほしい。

事務局: 今回は行政側からの評価シートはないが、相互検証総括表により行政の評価が解かるのでは。また、行政側からも評価シートが提出されるように、団体との話し合いを密に行えるように仕向けていきたい。

委員A: 「土に還る木森づくりの会」の評価シートには行政にもっと関

与してほしいとある。その評価の通り行政側にも声をかけて積極的に参加等をしてほしい。

委員 B：この事業を実際見に行ったが、参加者に偏りがあり、市民協働事業としてこれで良いのか疑問を感じた。実際の内容とタイトルが違っていることもある。各事業をもっと見るべき。

事務局：団体が熱心に活動することで、行政側が把握できないくらいに進みすぎる事業もある。このあたりの調整も今後の課題となってくる。

委員 C：「バス運行事業」の今後の予定はどうなっているのか。今回は対象者を高校生に絞っているが、広げる必要もあるのではないかな。

委員 D：2月末で試験運行が終了するわけだが、結果を詳細に知りたい。

委員 C：試験運行後に細かい検証が必要。他の方法も探っていったほしい。

事務局：試験運行終了後は速やかに検証し、今回の結果を今後に活かすようにしていく。

委員 E：今回初めて評価シート提出後に協議をしたわけだが、今後この評価シートを見て、協議会でどのようにしてチェックをして、フィードバックしていけば良いのか検討していきたい。

(3) 御殿場市民活動支援センター運営状況について

- ・支援センタースタッフの勝亦さんが資料に基づき平成21年の活動報告。

委員 F：支援センターの存在を区長会等でPRしてみてはどうか。

事務局：検討します。

支援センター：広報ごてんば2月5日号に支援センターの事を2ページ使い大きく取り上げてもらった。また、交流センターの広報誌にもカラーで掲載してもらった。このようにしてPRができ、知名度もあがってきていると思う。より良い運営を今後も検討していきたい。

(4) 平成22年度御殿場市市民協働型まちづくり事業

補助金事業提案募集・審査について

- ・「事業募集のお知らせ」資料により事務局が説明。

委員 F: 市民提案部門の募集团体数で①ステップアップ(上限10万円)と②市民提案(上限30万円)とあるが、この2つは申請金額の上限の違いがあるが、審査基準の違いは無い。ここでこの①と②を分けて募集をかける必要があるのかどうかご意見を伺いたい。

事務局: ①と②を分けるのであれば、上限が低い①に審査時に優先されることが必要であると思う。また、要綱上は①と②は明確にされていないので1つの市民提案として募集しても問題は無い。

委員 H: ①が審査で優先されるとなると、10万円以内なら、という考えで必要以上の経費を挙げて申請する団体も出てきて、補助金本来の趣旨から外れた事業まで審査を通過してしまう可能性があるのではないかと。①と②を分ける必要はないと思う。

委員 F: 上限30万円だけしか記さない場合、例えば10万円ですと十分という団体があつた時に尻ごみしてしまう可能性がある。この場合①の10万円コースを記しておけば「これなら事業ができる」となるのではないかと。そういった意味では分けても良いと思う。

事務局: 補助金の予算がどの程度かを示す必要もあるので、①と②を分けて上限30万円を『5団体程度』募集するというのはどうか。

委員 F: 今出た意見を踏まえて、事務局(案)でよろしいか。

一同: 了承。

委員 I: 今後は来年度予算決定前に事業募集して、応募があつた分だけ予算計上するという方法も検討して欲しい。

委員 F: 次に平成21年度補助金事業報告会と平成22年度第1回協議会、平成22年度補助金審査会の日程は別紙の日程表とおりでよいか。

一同: 了承。

- ・平成22年度第1回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会
平成22年4月24日(土) 午前10時～午前11時30分
- ・平成21年度市民協働型まちづくり事業補助金報告会
平成22年4月24日(土) 午後1時～午後4時
- ・平成22年度市民協働型まちづくり事業補助金事業提案説明会・審査会
平成22年6月20日(日) 午前10時～午後4時
(協議会では6月19日です承されたが、学識経験者の委員と日程調整して上記の日程とした。)

※会場はともに御殿場市民交流センター「ふじざくら」第3・4会議室

委員 F：審査ポイントの「②手法・形態」で「協働の内容、団体と行政の役割分担や協力内容が具体的に提案されているか(担当課の合意がなくても良い)」と記してあるが、この担当課の合意がなくても良いとの部分は、補助金交付後にお互いの合意が取れず協働事業としてうまく進まない状況になりかねない。このお知らせを作成した当初は団体の自発性を重視しての事だと思うが、皆さんの意見を伺いたい。

委員 J：そういう事なら「担当課の合意がなくては駄目」とした方がよいのでは。

事務局：そう記すと審査がかなり厳しくなる可能性がある。22年度は記さないで説明するというのはどうか。

委員 F：今の事務局の案でよろしいか。

一同：了承。

委員 C：対象になる事業・団体のところで分かりにくいと思われる部分がある。修正できないか。

事務局：補助金の説明会の時に詳しく説明し、理解を得たい。

(5) その他

事務局：平成21年度の協議会交付金を使い、平成22年度の補助金事業募集・説明会実施のチラシを作成したい。A4両面カラーで作成予定だがよろしいか。

一同：了承。

4 閉会